

# 府立大阪北視覚支援学校



## テーマ:重複障がいのある児童生徒に対してのICT活用

### 概要

府立大阪北視覚支援学校では、「重複障がいのある児童生徒に対してのICT活用」をテーマにパッケージ支援を行いました。全体会では、ICTの活用について確認しました。支援教育におけるICTの有効性について共有し、ICTを適切に活用するための考え方を整理しました。

研究授業では、ICT機器を活用することで、子どもたちが自ら活動を選び、主体的に取り組む姿が見られました。また、個々の特性に応じた支援の工夫が、学習意欲の向上につながることが確認できました。

研究協議では、ICTを使うことで効果的な支援につながることに加え、直接的なコミュニケーションや具体物を使った活動の重要性もあらためて考えることができました。

### 実施

#### スケジュール

#### Research

6月19日(水) 打合せ

#### Vision

9月2日(月) 全体会

#### Plan

9月～ 指導案検討

#### Do

12月11日(水) 研究授業  
12月20日(金) 授業後の協議

#### Check & Act

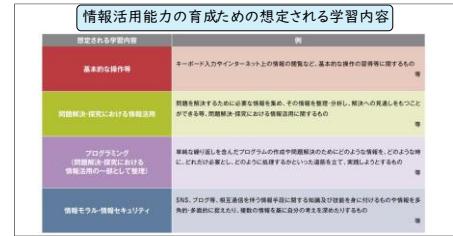
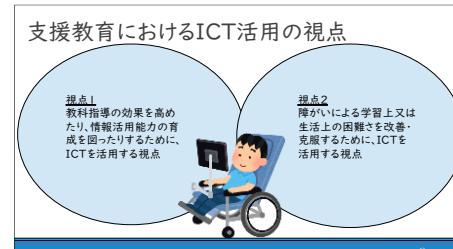
1月10日(金) 全体会 研究協議  
アンケート集約

### 全体会

#### 9月2日(月)「ICTを活用した授業づくり」について

支援教育推進室 指導主事 より（以下資料より抜粋）

「個別最適な学び」と「協働的な学び」について、支援教育におけるICT活用について確認し、ICT機器を活用することで指導・支援の効果を高めることができる場面や機能について協議を実施しました。協議を通して、日々の教育活動にICT機器をどのように取り入れができるかなど、気づいたことを共有できる機会になりました。



**研究授業**

学年・教科： 小学部 3、4、5、6年生 道徳

単元名： 「世界のあいさつ」

タブレット端末に触れると音声が流れると子どもが理解し、興味関心が高まり、自発的に操作する様子が見られるなど主体的な学びにつながっていました。

研究協議のポイント  
また、ICTと従来の教材のバランスについても協議し、物に触れたり、直接的なやり取りをしたりすることを大切にすることが求められる場面もあり、ICTを活用すること目的とするのではなく、学習のねらいに沿った適切な活用を考えていくことが必要であることを確認しました。

学年・教科： 高等部 1年生 自立活動

単元名： 「タブレット端末で活動内容を選択する」

意思の表出を補助するアプリケーションソフトを使用することで、子どもが自分で活動を選び、主体的に取り組む姿が見られました。これまでの指導で培ってきた「自分で選ぶ」「自分で決める」という経験をもとに、ICTを活用し、子どもに合わせて解答の提示方法を工夫することで学習の効果が高まっていました。将来の自立と社会参加に向け、どのように発展させていくかについても意見交換を行いました。

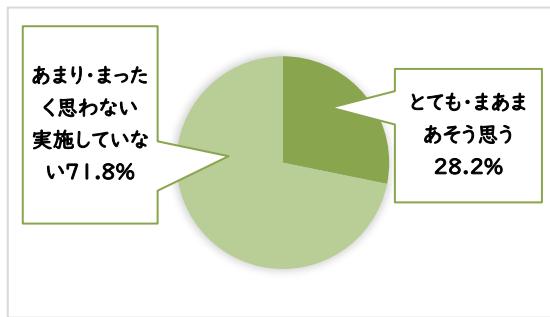
**成果**

本研修を通じて、ICTが重複障がいのある子どもたちの主体的な学びを支え、選択の機会を広げる可能性があることを共有することができました。特に、研究授業ではタブレット端末を取り入れたことで、子どもたちが自ら活動を選んだり、意欲的に取り組んだりする姿が見られました。

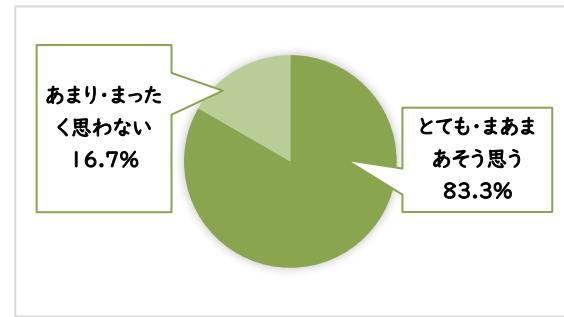
研究協議では、ICT活用のメリットだけでなく、直接的な関わりや具体物を使う支援とのバランスについても意見交換することができました。ICTによる支援は、選択の幅を広げたり、子どもの意欲を高めたりするなど有効である一方で、すべての場面でICTを用いるのではなく、対面での関わりや身体的な活動を組合せることが重要であることも確認することができました。また、今後のICTのより良い活用について、考える機会となりました。

**アンケート****結果**

① 実施前



② 実施後



(アンケートより)

- ・支援の必要な生徒へのICT活用方法や支援方法を検討していく必要があると感じました。
- ・一人ひとりに合わせたICT活用方法を模索していくことは、難しくもあり楽しかった。今後、重複障がいのある子どもに対するICT活用を進めていくうえで必要な過程だと感じました。